

5 木造建物の長寿命化

わが国の建物の寿命は欧米諸国に比べるとときわめて短いことが知られています。

一方で、京都、奈良など古都には築後千年を超える木造建築が多く現存しています。

世代を超え、長期にわたって使用できる資産価値の高いストックを築くことは、経済性に加え地球温暖化防止のための二酸化炭素の放出量削減と固定量拡大、木くずをはじめとする建設廃棄物排出量の削減等につながります。

今後の公共建築の整備では建物の長寿命化について配慮が必要です。



三徳山三佛寺投入堂(三朝町)

平成時代後期の建設とされ、木造でありながら、築後千年前後の時を経た今なお「日本一美しい建築物」とまで称される建造美を誇る。

流造、檜皮葺き、正面一間、側面二間の建物で、正面と右側面に高欄付きの縁をめぐる。三徳山の北側中腹の断崖絶壁のオーバーハングした岩窟の中に、絶妙なバランスで建てられており、左隣に付属する愛染堂、棟札1枚、古材43点とともに国宝に指定されている。

※国宝指定名称は「三仏寺奥院(投入堂)」。

(1) 継承性・持続性の確保

地域において世代を超えて使い続けられる木造とするためには、地域の気候、地形、地質、生活様式等に即した継承性、長期間にわたり建物が機能し続けるための規模・性能等の持続性の確保に関する措置を講じることが重要です。



倉吉の町並みと休憩所(倉吉市)

倉吉の古い町並みを読み込み、面格子など既存の町並みの素材を活かした、トイレを併設する休憩所。



(2) 物理的長期耐用性の確保

雨水、結露、地面からの湿気等に起因する木材の腐朽や蟻害、金物の錆、基礎コンクリートの中酸化等による構造躯体等の劣化を軽減するため、長期にわたる物理的耐用性の確保に配慮した材料の選択、湿気処理、構法上の工夫等が必要です。

(3) 維持保全性・更新の容易性の確保

維持保全や部品の更新が容易に行えるようにするとともに、そのための経費の節減を図るため、維持保全性・更新の容易性の確保に関する措置を講じることが必要です。

また、適切な時期に適切な維持管理、修繕を行うことにより、建物や設備の寿命を延ばし、結果的にライフサイクルコストの低減に繋がります。

(4) 可変性の確保

時代のニーズの変化等に対応して、大規模な改修等を伴うことなく、部屋の使用形態の変更、間取りの変更等が容易に行えるようにするため、可変性の確保に関する措置を講じることが必要です。

(5) その他配慮することが望ましい事項

その他、木造建築の長寿命化に関連して、長寿命化に不可欠な点検・清掃等の維持管理のポイント、湿気対策等の住まい方のポイントなどについて、住まい手向けにわかりやすく情報提供すること廃棄物の削減、資源の有効活用について措置を講じる努力が必要です。

CHECK!

木造を長く使う



仁風閣

鳥取城跡に建つルネッサンス様式を基調とした木造2階建て洋館。

明治40年(1907年)、旧鳥取藩主の池田氏が別邸として建てたもので、皇太子(のちの大正天皇)の山陰行啓の宿舎として使用された。木造でありながら、築後100年を経た今なお、白亜の優美な姿で市民に親しまれている。昭和48年に国の重要文化財に指定され、3年の歳月をかけた大修理を経て現在に至る。設計は当時の宮内省匠頭であった片山東熊氏、工事監督は鳥取県出身の橋本平蔵氏とされている。